

六会地区 人口: 37,463人 世帯数: 17,066世帯 (令和6年2月1日現在)

落語鑑賞会

令和6年1月27日(土)

場所: 六会市民センター3階ホール

参加人数: 64名



今回もたくさんの方に応募いただき、抽選により64名の落語ファンが参加されました。

昨年に引き続き出演いただいた3代目桂藤兵衛師匠からは、演目「つる」と「竹の水仙」。「つる」は、鶴が唐土から飛んで来た際、雄が「つー」と、雌が「るー」と、飛んで来たために「つる」という名前になったと言う話。また、「竹の水仙」は無一文の左甚五郎が正体を明かさず泊まり続けた宿屋に宿賃の催促をされ、その宿賃の代わりに竹で作ったのが水仙のつぼみの彫刻と言う話。2つの古典落語を披露していただきました。師匠の聴衆を飽きさせない独特な語り口と物語性のある話や遊び心のあるセリフに会場は笑いに包まれました。

紙切り芸人の林家楽一さんは、音楽に合わせ、リクエストに基づいて即興的に紙を切り進め、時にユーモアやコメディ要素を取り入れ、観客を笑わせながら、「大谷翔平」、「紫式部」、「辰」、「藤娘」等を切り出し、それが披露されるたびに、「おうー」という歓声が起こりました。観客は1枚の紙から様々な絵柄を切り出す日本の伝統芸能を堪能しました。



福祉講演会

(六会公民館共催)

令和6年2月3日(土)

場所: 六会市民センター3階ホール

参加人数: 43名

寒さの中にもほんのり春の気配を感じる週末、「NPO法人 森の仔じゆうがっこう」より人見窈子氏・松尾保亮氏を講師にお招きして福祉講演会が開催されました。最初に文部科学省からのデータを基に、不登校・ひきこもり・フリースクールについて、その定義や現在の状況についてわかりやすく説明していただき、フリースクール(森の仔じゆうがっこう)での「生きる力をはぐむわくわくする居場所」の活動をスライドで紹介していただきました。

- ・料理やソーラーカー作り、部活、市民農園での収穫作業など、子どもたちの目が輝いていました。
- ・スクールでは、「両親にとことん関わっていただきます。ご家庭の理解が一番大切だと申し上げます！」という言葉には多くの参加者がうなずいておられました。

まとめとして述べられた次の講話が印象的でした。

- ・学校へ行けないこと(不登校)が問題なのでしょうか？
- ・社会へ出て行けないこと(ひきこもり)が問題なのでしょうか？
- ・大人は経験から悩みやストレスを解消する方法を身につけていますが、子どもは家庭での愛情(エネルギー補給)が必要です。それぞれの視点に立ち、本人を、家族を、学校を、社会を眺めて、本人とその家族が日々元気に暮らすことが大切です。



— 講師の人見様、松尾様、並びに参加者の皆様、ありがとうございました —

賛助会員の紹介

(順不同、敬称略)

団体:

・六会地区民生委員児童委員協議会

個人:

・小林 雄一
・杉山 良夫
・加藤 道子
・大野 とも子
・麻生 千恵子

ありがとうございました

賛助会費合計

48,000円

令和5年度の主な事業

日付	事業内容
5月 22日(月)	春のお楽しみ会
6月 23日(金)	ふれあいの集い
7月 21日(金)	体験学習会
9月 5日(火)~18日(月)	敬老事業(お祝い品配布)
9月 20日(水)	第16回ふれあいグラウンドゴルフ大会
10月 14日(土)、15日(日)	第44回六会公民館ふるさとまつり
10月 23日(月)	秋のお楽しみ会
11月 8日(水)	ボランティア研修
1月 27日(土)	落語鑑賞会
2月 3日(土)	福祉講演会(六会公民館共催)

ボランティアセンターについて

ボランティアセンターでは、六会地区の皆様のごちょっとしたお手伝いをしています。お気軽にお問い合わせください。またボランティアセンター内の「憩いの広場」はどなたでも自由に利用できます。

無料で飲み物を提供していますので、ぜひお立ち寄りください。

ボランティアセンターむつあい: ☎ 0466-61-6211

月・水・金 9時~12時、13時~15時

♥車いすの貸し出し♥

六会地区にお住まいの方に車いすを無料で貸し出していますのでご利用ください。

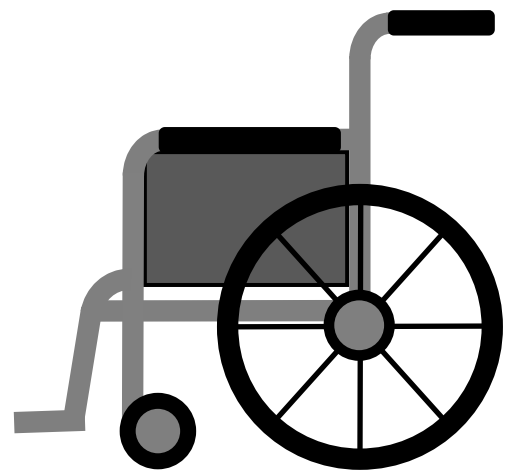
問い合わせ:

六会市民センター福祉窓口

☎ 0466-81-6677 (受付:平日 8:30~17:00)

石川分館福祉窓口

☎ 0466-88-5600 (受付:平日 8:30~17:00)



編集後記: 今年度も残すところ、あとわずかとなりました。皆様、いつも社協だよりをご愛読いただきありがとうございます。今年度も皆様のお陰で、有意義な活動が実現しました。関わっていただいたすべての方々に心から感謝申し上げます。

来年度も編集委員一丸となって楽しく、またわかりやすい紙面づくりを続けていきたいと思っています。

編集委員: 佐久間茂 松嶋交治 出川英二 佐川俊夫 川島啓史